

細川英雄先生ワークショップ

今、なぜ「考えるための日本語」か —総合活動型日本語教育の理論と実践—

2018.4.22(日) 13:00-17:00

ライデン大学 LIPSIUS 227教室

主旨：2001年のヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）公開刊行以後、言語教育の世界では、言語学習者を社会的行為者と捉え、個人と社会の循環を図ることによって、市民性を持った個人と民主的な社会のあり方を考えようとする大きな流れが生じています。総合活動型日本語教育は、CEFR前夜の1998年に早稲田大学日本語研究教育センター（当時）で始まった日本語教育の考え方の一つです。「考えるための日本語」は、この活動型日本語教育による教室活動の科目名として使われました。2003年には教員養成用ビデオも作成されました。今回の講演では、このビデオの一部を実例として共有し、参加の方々とともに、この教育実践活動のめざすものとその活動の内容についてやりとりをしてみたいと思います。このことを通して、言語文化教育の理論的背景とともに、教材というもののあり方、教室の内外という発想、評価とは何かといった論点から、現在の日本語教育の課題と今後の展望を考えます。

講師紹介：早稲田大学名誉教授。現在、言語文化教育研究所八ヶ岳アカデミア主宰。専門は言語文化教育論、日本語教育。主著に『考えるための日本語』（明石書店2004）『日本語教育は何を目指すか—言語文化活動の理論と実践』（明石書店2002）など多数。

参加費 15ユーロ（オランダ日本語教師会会員は無料）
問い合わせ先： orandakyoshikai@gmail.com